



# け や き

学校教育目標

未来を拓き、心豊かにたくましく生きる力を育む

令和6年7月1日

児童数 333名

## 「氷川の地（地域）で育てたい子ども」とは ～学校運営協議会報告～

校長 佐藤 健

先月の6日に今年度最初の学校運営協議会を開催しました。学校運営協議会とは、地域総掛かりでの教育の実現のため、学校と地域が「地域でどのような子どもを育てていくのか」「そのために何を実現していくのか」といった目標やビジョンを共有し、連携・協働によって達成を目指していく組織です。本校では、日頃から本校を支えていただいている地域、保護者の代表の皆様、さいたま市教育委員会から委員を委嘱させていただきました。

### さいたま市立大宮北小学校学校運営協議会委員（敬称略）

会長	波多野 裕	（青少年育成さいたま市民会議氷川地区会長）
副会長	吉田 弘一	（さいたま市立大宮北公民館長）
委員	榊原 靖之	（防犯ボランティア）
委員	波多野 清一	（チャレンジスクール実行委員長）
委員	伊澤 喜久男	（大宮交通安全協会大宮北支部長）
委員	押田 香織	（大宮北部地区主任児童委員）
委員	押田 昌敏	（大宮北小ダディーズクラブ会長）
委員	小林 正美	（さいたま市立大宮北中学校長）
委員	林 日奈子	（大宮北小PTA会長）
委員	森田 舞	（大宮北小PTA副会長）
委員	高須 みゆき	（大宮北小PTA副会長）



グループでの発表

学校運営協議会で大切になるのは「熟議」と呼ばれる話し合いです。今回は、「氷川の地（地域）で育てたい子ども像について」～「北っ子魂輝く」子どもを育むための学校、家庭、地域三位一体での取り組み方について～をテーマに小グループに分かれて議論し、様々な意見が出されました。

○コミュニケーション力を高めてほしい。

○自信をもってほしい。

○あいさつができる、自ら発信できるようになってほしい。

等が意見として挙がりました。また、親の在り方として、「親が子どもに気持ちを言葉にして伝えていこう」「親同士で話ができる機会を積極的に作っていく必要がある」といった意見も出され、有意義な話し合いとなりました。この話し合いを総括する中で、コミュニケーション力がこれからの時代にとりわけ必要となる力であり、その力を育むには「あいさつ」からとまどり、学校運営協議会として育てたい子ども像（目標）を次の様に決定しました。

### 「あいさつができる子どもを育てよう」

今後の学校運営協議会では、この目標にむけて、学校、家庭、地域が「協働」してどのように取り組むか、具体的な手立てを検討し実行します。本校では「日本一心のこもったあいさつができる学校」を標榜しておりますが、これが「日本一心のこもったあいさつができる地域」へと広がるような取組を学校運営協議会が中心となり三位一体で展開して参ります。